

平成28年度 第1回 高等学校入学者選抜審議会

日時 平成28年7月25日(月) 10:00～

場所 行政庁舎9階 第一会議室

次 第

1 開 会

2 諮 問

- (1) 平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
- (2) 平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について
- (3) 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

3 報 告

- (1) 平成28年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について
- (2) 平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜について
- (3) 専門委員の就任について

4 審 議

- (1) 平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について
- (2) 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

5 その他

6 閉 会

【 資 料 】

(総ページ数)

- 資料1 諮問・審議関係資料・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 資料2 報告関係資料・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 別冊子
 - ・ 平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜一覧
 - ・ 平成28年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果

高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 平成24年12月条例第71号

第1条 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

第2条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

第3条 委員及び専門委員は、学校の教職員、総合教育センターの職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第4条 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

第5条 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

第6条 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

第7条 この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年10月11日条例第27号抄）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第71号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

第1回高等学校入学者選抜審議会 名簿

(審議会委員)

No.	氏名	現職	備考
1	柴山 直	東北大学大学院教育学研究科教授	
2	田端 健人	宮城教育大学教育学部教授	
3	坪田 益美	東北学院大学教養学部准教授	
4	金田 隆	仙台経済同友会事務局長	
5	浅野 純江	宮城県高等学校PTA連合会副会長	
6	村上 裕子	宮城県PTA連合会副会長	
7	伊藤 宣子	聖ウルスラ学院英智高等学校校長	
8	星 豪	大崎市立古川中学校校長	
9	新山 弘幸	仙台市立長町中学校校長	
10	齊 隆	宮城教育大学附属中学校副校長	
11	村上 善司	女川町教育委員会教育長	
12	猪股 亮文	仙台市教育局学校教育部教育指導課長	
13	長島 勝彦	宮城県仙台第二高等学校校長	
14	吉田 玲子	宮城県岩ヶ崎高等学校校長	
15	村上 礼子	宮城県松島高等学校校長	
16	小林 裕介	宮城県総合教育センター所長	

(教育庁)

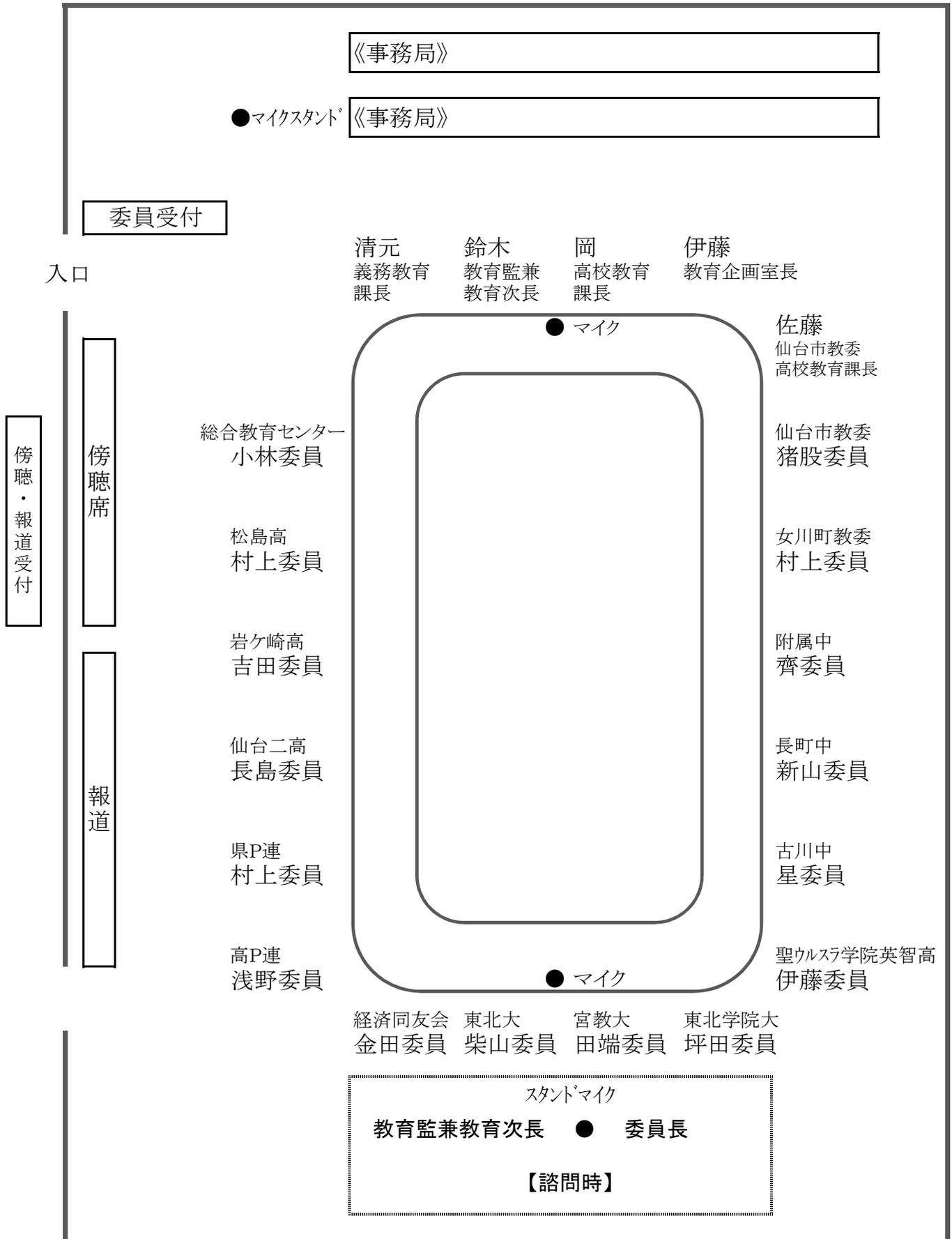
教育委員会	教育長	高橋 仁
	教育次長	西村 晃一
	教育監兼教育次長	鈴木 洋
教育企画室	室長	伊藤 正弘
	教育改革班室長補佐兼企画員	西城 昭子
教職員課	県立学校人事班課長補佐	佐藤 浩
義務教育課	参事兼課長	清元けい子
	指導班副参事	前田 正
高校教育課	課長	岡 邦広
	庁副参事兼課長補佐	田村 賢治
	副参事兼課長補佐	高橋 修
	教育指導班課長補佐	和賀 久佳
	教育指導班主幹	太田 克佳
	〃 主幹	菊田 英孝
	〃 主幹	遠藤 薫
	〃 主幹	菅原 紀子
	〃 主幹	穀田 長彦
	〃 主幹	大澤 健史
	〃 主任主査	上遠野裕子

(仙台市教育局)

学校教育部	高校教育課	課長	佐藤 義行
	〃	指導主事	春日川 孝

平成28年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 座席図

行政庁舎9階 第一会議室



諮問・審議 関係資料

諮 問

諮問文	1
（別紙 1）選抜方針について	2
（別紙 2）選抜日程について	4
（別紙 3）今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について	5

審 議

1 平成 30 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について	
（1）選抜方針について	
・平成 30 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について	6
（参考）平成 29 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針	
（2）選抜日程について	
・平成 18 年度～平成 29 年度高等学校入学者選抜の推移	8
・平成 30 年度の入学者選抜日程のシミュレーション	9
2 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について	
（1）宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査の結果について	10
（2）県立高等学校入学者選抜について	14



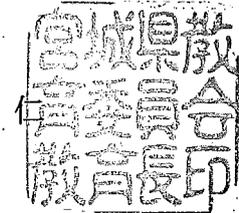
高 第 3 2 5 号

平成28年7月25日

高等学校入学者選抜審議会委員長 殿

宮城県教育委員会

教育長 高 橋



宮城県立高等学校入学者選抜について（諮問）

このことについて、高等学校入学者選抜審議会条例第1条の規定により、下記事項について諮問します。

記

- 1 平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙1）
- 2 平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙2）
- 3 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について（別紙3）

平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各高等学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあつては調査書等作成のための委員会を、高等学校にあつては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 前期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、前期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類、学校独自検査の結果及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。各高等学校は、学校独自検査及び学力検査の満点及び総点を適宜定める。
- (2) 学校独自検査
学校独自検査は、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文等の中から一つ以上実施する。
- (3) 学力検査
ア 学力検査の実施教科は、国語、数学及び英語とする。
イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

3 後期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、後期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。
この場合、次のア～ウのいずれか一つ又は複数を実施して、その結果を選抜の資料に加えることができる。
ア 面接
イ 実技（体育及び美術に関する学科の場合）
ウ 一部教科の得点を倍にする等の傾斜配点
また、必要に応じその他の資料を加えることができる。

(2) 学力検査

ア 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査（前期選抜に準じる。）、面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

6 社会人特別選抜

定時制課程の学科においては、前期選抜において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

7 通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜日程

前期選抜・連携型中高一貫教育に関する選抜

実施日 平成30年 1月31日(水)

合格発表日 平成30年 2月 8日(木)

後期選抜

実施日 平成30年 3月 6日(火)

合格発表日 平成30年 3月14日(水)

(別紙3)

理 由 書

県立高等学校入学者選抜については、受験する立場の生徒にとって公正かつ適正を基本としつつ、教育環境の変化や時代の要請に対応して、これまで様々な改善を行ってきました。

現在の後期選抜における基本的な形である調査書及び学力検査の結果に基づき総合的に審査するという方式は、昭和42年度入試から学力検査の教科数を9教科から5教科に改めるとともに、調査書と学力検査の結果を相関図表を用いて総合的に審査することとした一般入試の方式が引き継がれたものです。

また、昭和53年度入試において、農業に関する学科及び水産に関する学科の一部で初めて導入した推薦入試制は、選抜方法の多様化と選抜尺度の多元化の観点から、その対象学科と募集割合を順次拡大し、平成6年度入試から普通科にも導入しました。この推薦入試本来のよさである受験生の多様な能力を多面的に評価するという理念を継承し、受験生の意欲や目的意識を大切に選抜として前期選抜を導入しました。

前期選抜については、各高校の「特色ある学校づくり」という観点も踏まえ、具体的な出願要件を各高校があらかじめ示し、その要件を満たす生徒が出願する形の選抜制度であり、受験生の多様な能力を多面的に評価するという観点に加え、学力の定着という観点から学校独自検査と併せて学力検査を実施することで、学力の向上や特色ある学校づくりの一層の推進を図ってきました。

平成25年度から導入した前期選抜・後期選抜は、これまでの推薦入試・一般入試制度を抜本的に見直し、受験生の多様な能力を多面的に評価するという理念を継承し、生徒一人ひとりの中学校3年間の学習成果や、多様な能力・適性等を多面的に評価することを目指したものであり、最大3回の受験機会を確保し、進路選択幅や受験機会の拡大という点においても、その役割を果たしてきました。

しかしながら、本県の現行入学者選抜については、入試期間の長期化に伴い、中学校及び高等学校の教育活動に影響を及ぼしているという点で課題があるのではないか、などの意見があります。

高校入試は、中学校の教育を総括し高等学校教育に円滑に接続させるという役割を担うとともに、「確かな学力」の定着という点においても大きな意味をもつものと考えられます。

このような状況を踏まえ、中学校及び高等学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、より公正かつ適正な選抜を実現するため、今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について様々な観点から総合的に御検討いただくよう、諮問いたします。

1 平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について

(1) 選抜方針について

- ・平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針
(諮問・審議関係資料 2, 3 ページ (別紙1) 参照)
- ・平成29年度宮城県立高等学校入学者選抜方針からの変更はなし

(参考) 平成29年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

平成29年度宮城県立高等学校入学者選抜方針

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

1 基本原則

- (1) 各高等学校長は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。
- (2) 出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあっては調査書等作成のための委員会を、高等学校にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

2 前期選抜

- (1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、前期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類、学校独自検査の結果及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。各高等学校は、学校独自検査及び学力検査の満点及び総点を適宜定める。
- (2) 学校独自検査
学校独自検査は、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文等の中から一つ以上実施する。
- (3) 学力検査
ア 学力検査の実施教科は、国語、数学及び英語とする。
イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

3 後期選抜

(1) すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、後期選抜を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

この場合、次のア～ウのいずれか一つ又は複数を実施して、その結果を選抜の資料に加えることができる。

ア 面接

イ 実技（体育及び美術に関する学科の場合）

ウ 一部教科の得点を倍にする等の傾斜配点

また、必要に応じその他の資料を加えることができる。

(2) 学力検査

ア 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

イ 学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

4 第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

5 連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、その他必要な書類及び学力検査（前期選抜に準じる。）、面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

6 社会人特別選抜

定時制課程の学科においては、前期選抜において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

7 通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

(2) 選抜日程について

① 平成20年度～平成29年度高等学校入学者選抜日程の推移

入試年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入試制度	推薦入試・一般入試・第二次募集					前期選抜・後期選抜・第二次募集					
推薦入学・前期選抜 出願者受付	1.15～23	1.14～22	1.13～22	1.13～21	1.16～23	1.11～16	1.14～17	1.13～16	1.12～15	1.10～13※	
推薦入学出願者の面接等	1.31(木)	1.30(金)	1.29(金)	1.31(月)	1.31(火)						
(私立高入試A日程)	2.1(金)	2.2(月)	2.1(月)	2.1(火)	2.1(水)	1.28(月)	1.29(水)	1.28(水)	1.27(水)	1.25(水)	
(私立高入試B日程)	2.4(月)	2.4(水)	2.3(水)	2.3(木)	2.3(金)	1.30(水)	1.31(金)	1.30(金)	1.29(金)	1.27(金)	
前期選抜実施日						2.1(金)	2.4(火)	2.3(火)	2.3(水)	2.1(水)	
推薦入学結果通知 前期合格発表	2.7(木)	2.6(金)	2.5(金)	2.7(月)	2.7(火)	2.12(火)	2.12(水)	2.10(火)	2.12(金)	2.9(木)	
出願受付	2.15～25	2.16～23	2.15～23	2.16～24	2.16～23	2.20～25	2.20～25	2.19～24	2.23～26	2.21～24※	
学力検査	3.6(木)	3.5(木)	3.4(木)	3.9(水)	3.8(木)	3.7(木)	3.6(木)	3.5(木)	3.9(水)	3.8(水)	
合格者の発表	3.12(水)	3.11(水)	3.10(水)	3.15(火)	3.14(水)	3.13(水)	3.12(水)	3.12(木)	3.16(水)	3.16(木)	
第二次募集出願受付	3.13～18	3.12～17	3.11～16	3.16～18	3.15～19	3.14～18	3.13～17	3.13～17	3.17～18	3.17～21※	
第二次募集実施日 ・合格発表	3.19～21	3.18～19	3.17～18	3.22～23	3.21～22	3.21～22	3.19～20	3.19～20	3.23～24	3.22～23※	

※は予定

※ 平成30年カレンダー

1 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2 月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3 月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

(2) 選抜日程について

審議(1)

② 平成30年度入学者選抜日程のシミュレーション

○:実施日 前:前期 A:私学A日程
 △:合格発表日 後:後期 B:私学B日程
 出:出願期間 二次:二次募集 卒:公立高校卒業式

	平成28年	平成29年	平成30年			
			案1	案2	案3	案4
金	1月22 前出12~	1月20 前出10~	1月19	1月19	1月19	1月19
土	23	21	20	20	20	20
日	24	22	21	21	21	21
月	25	23	22	22	22	22
火	26	24	23	23	23	23
水	27 A	25 A	24	24	24	24
木	28	26	25	25	25	25
金	29 B	27 B	26	26	26	26
土	30	28	27	27	27	27
日	31	29	28	28	28	28
月	2月1	30	29	29	29	29
火	2	31	30	30	30	30
水	3 前○	2月1 前○	31 前○	31 前○	31	31
木	4	2	2月1	2月1 前○	2月1	2月1
金	5	3	2	2	2	2
土	6	4	3	3	3	3
日	7	5	4	4	4	4
月	8	6	5	5	5	5
火	9	7	6	6	6 前○	6
水	10	8	7	7	7	7 前○
木	11	9 前△	8	8	8	8
金	12 前△	10	9	9 前△	9	9
土	13	11	10	10	10	10
日	14	12	11	11	11	11
月	15	13	12	12	12	12
火	16	14	13	13	13	13
水	17	15	14	14	14 前△	14
木	18	16	15	15	15	15 前△
金	19	17	16	16	16	16
土	20	18	17	17	17	17
日	21	19	18	18	18	18
月	22	20 後出	19 後出	19 後出	19	19
火	23 後出	21 後出	20 後出	20 後出	20 後出	20 後出
水	24 後出	22 後出	21 後出	21 後出	21 後出	21 後出
木	25 後出	23 後出	22 後出	22 後出	22 後出	22 後出
金	26	24	23	23	23	23
土	27	25	24	24	24	24
日	28	26	25	25	25	25
月	29	27	26	26	26 後出	26 後出
火	3月1 卒	28	27	27	27 後出	27 後出
水	2	3月1 卒	28	28	28	28
木	3	2	3月1 卒	3月1 卒	3月1 卒	3月1 卒
金	4	3	2	2	2	2
土	5	4	3	3	3	3
日	6	5	4	4	4	4
月	7	6	5	5	5	5
火	8	7	6 後○	6	6	6 後○
水	9 後○	8 後○	7	7 後○	7 後○	7 後○
木	10	9	8	8	8	8
金	11 鎮魂	10 鎮魂	9	9	9	9
土	12	11 鎮魂	10	10	10	10
日	13	12	11 鎮魂	11 鎮魂	11 鎮魂	11 鎮魂
月	14	13	12	12	12	12
火	15	14	13	13	13	13
水	16 後△	15 後△	14 後△	14 後△	14 後△	14 後△
木	17 二出	16 後△	15 二出	15 後△	15 後△	15 二出
金	18 二出	17 二出	16 二出	16 二出	16 二出	16 二出
土	19	18	17	17	17	17
日	20	19	18	18	18	18
月	21	20	19 二出	19 二出	19 二出	19 二出
火	22 二出	21 二出	20 二次○△	20 二出	20 二出	20 二次○△
水	23 二次○△	22 二次○△	21	21	21	21
木	24 二次△	23 二次△	22 二次△	22 二次○△	22 二次○△	22 二次△
金	25	24	23	23 二次△	23 二次△	23
土	26	25	24	24	24	24
日	27	26	25	25	25	25
月	28	27	26	26	26	26
火	29	28	27	27	27	27
水	30	29	28	28	28	28
木	31	30	29	29	29	29
金		31	30	30	30	30
土			31	31	31	31

○ 宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査の結果(速報)

平成28年7月
高校教育課

1 調査の概要

(1) 調査目的

「平成25年度入学者選抜」からスタートした新しい入試制度について、3カ年の実施状況を踏まえた評価を行うことで、旧制度からの変更点の効果を検証するとともに、その課題と改善の方向性についての意見を集約し、入学者選抜に係る今後の検討の参考とする。

(2) 調査対象学校数

- ・公立の高等学校 83校 (回収数 83校)
※ 全日制70校(川崎校含む) ・定時制13校
- ・国立・公立・私立の中学校 210校 (回収数 210校)
- ・公立の特別支援学校中学部 18校 (回収数 18校)
- ・中等教育学校 2校 (回収数 1校)

(3) 実施期間

- ・平成27年12月下旬から平成28年1月22日(金)まで

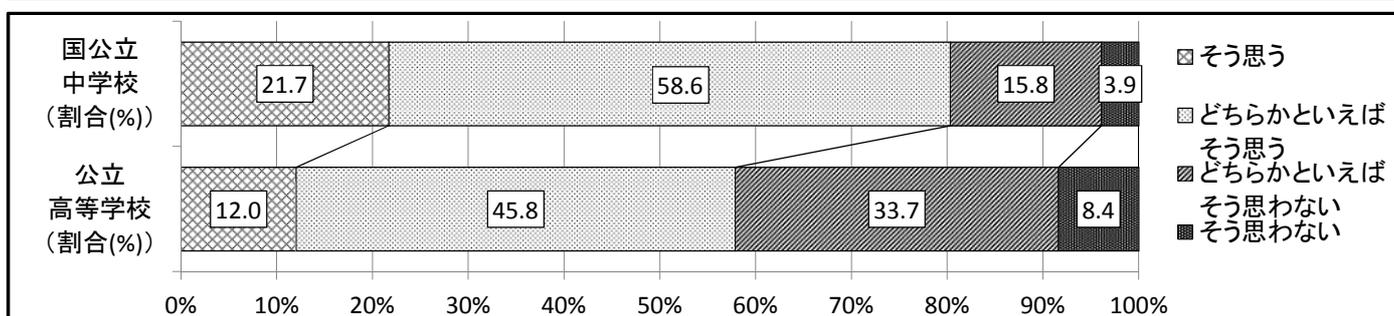
(4) 調査項目

- ① 検証：旧制度からの変更点の効果 【Q1～Q8】
- ② 評価：新しい入試制度の課題と改善の方向性 【Q9～22】

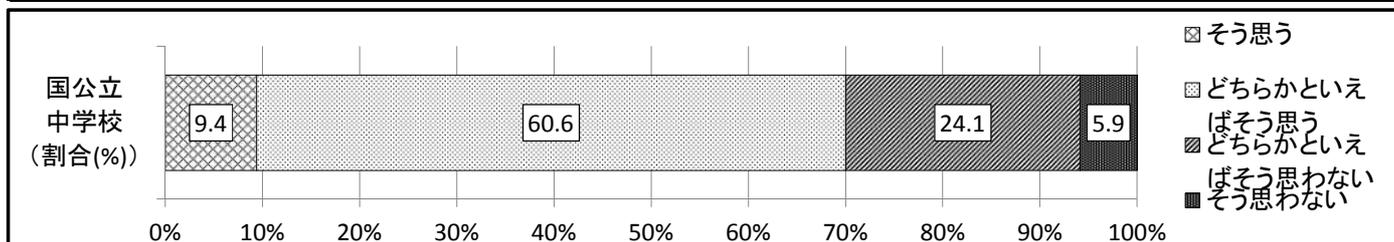
2 調査の結果から

(1) 検証：旧制度からの変更点の効果等

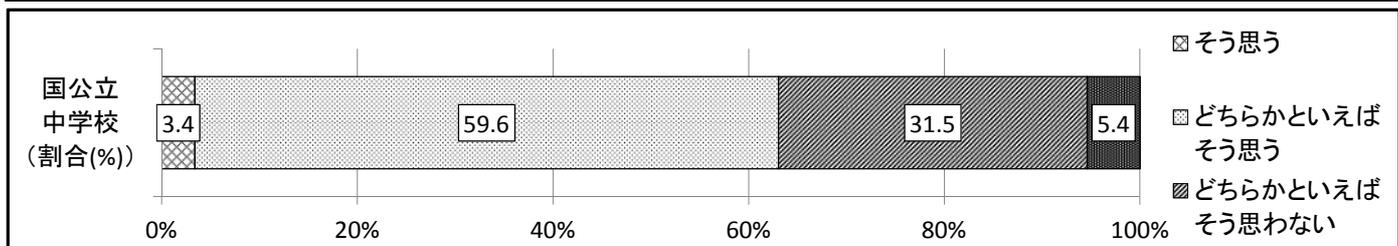
共 Q1 新しい入試制度は、「受験機会の拡大・受験者数の増加」につながっている。



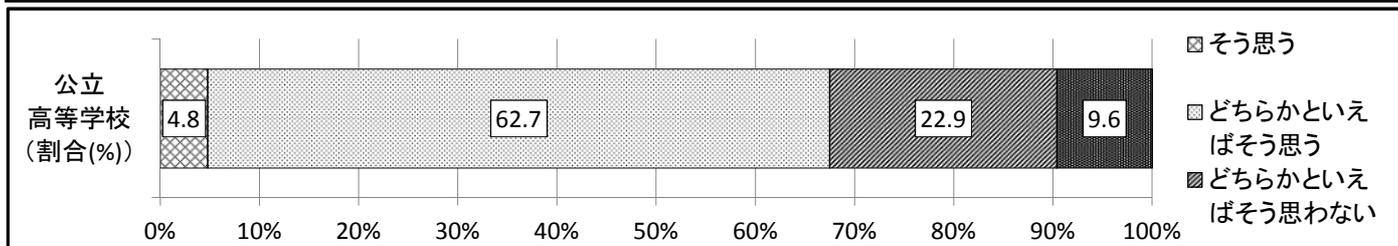
中 Q2 新しい入試制度は、「目的意識の明確化・主体的な進路選択」に役立っている。



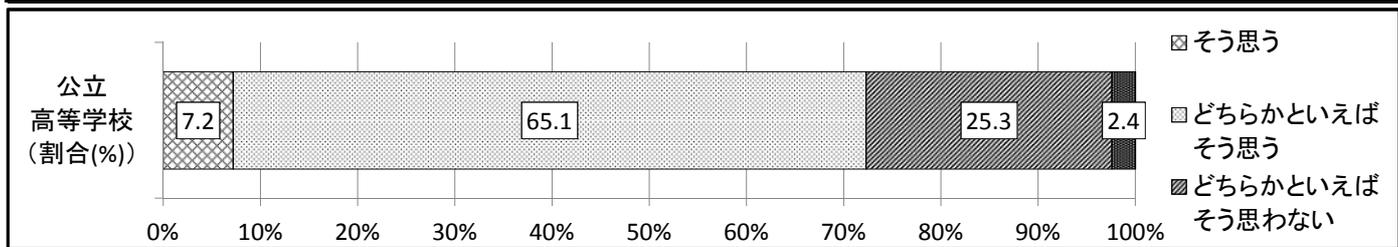
中 Q3 新しい入試制度は、「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」に役立っている。



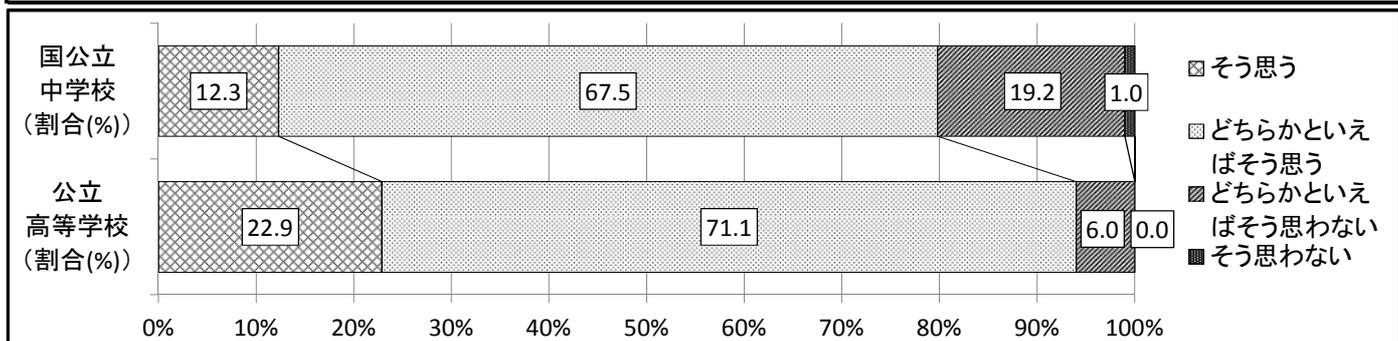
高 Q4 新しい入試制度は、各高校が進める「特色ある学校づくり」に役立っている。



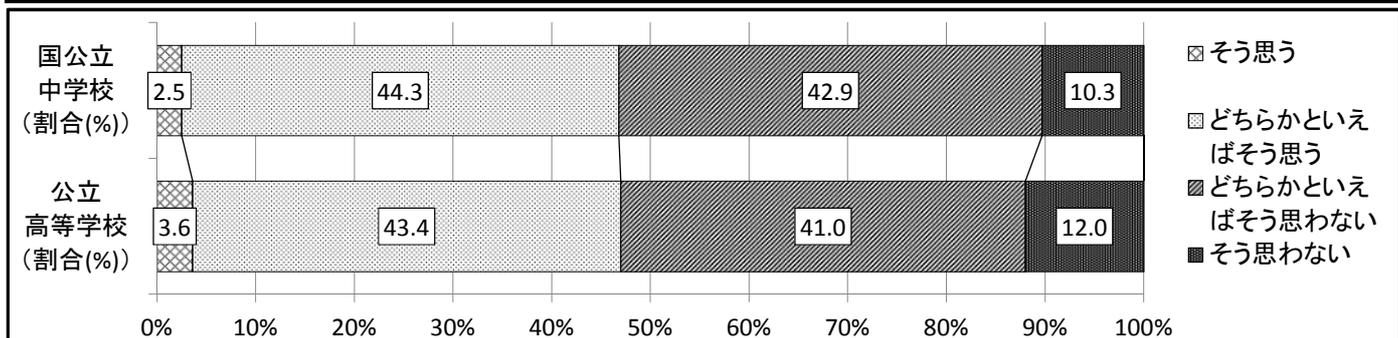
高 Q5 新しい入試制度は、「期待する生徒像に沿った資質・能力の評価」に役立っている。



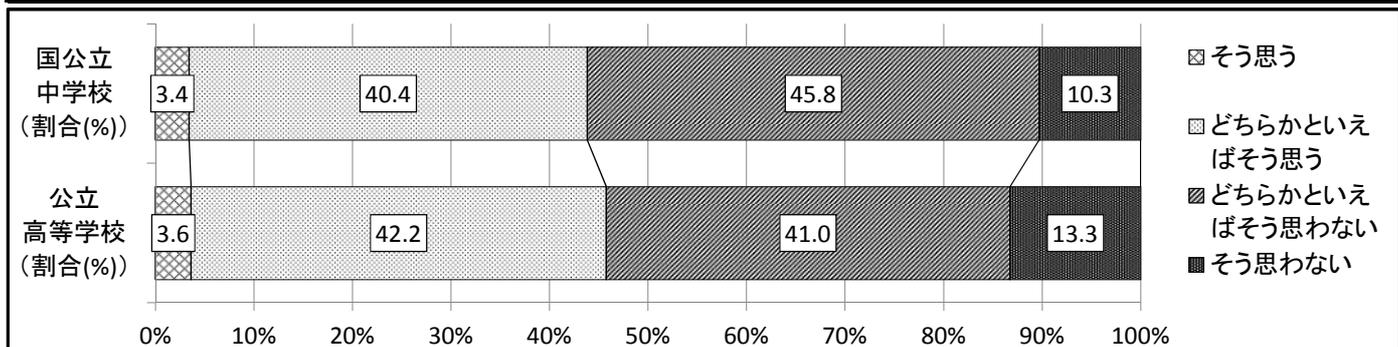
共 Q6 新しい入試制度は、入学者選抜の「透明性・客観性の確保」に役立っている。



共 Q7 新しい入試制度は、「生徒にとって、学校生活の充実」に役立っている。

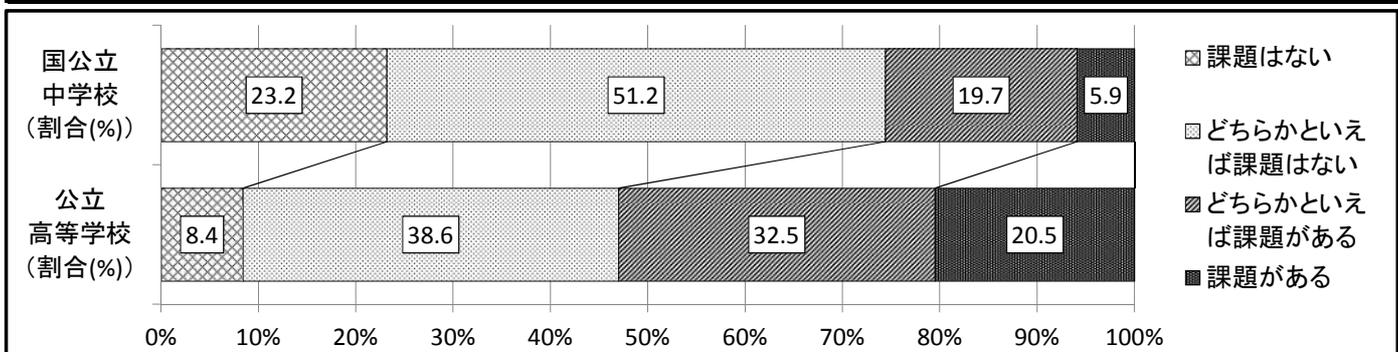


共 Q8 新しい入試制度は、「学校の教育活動の充実」に役立っている。

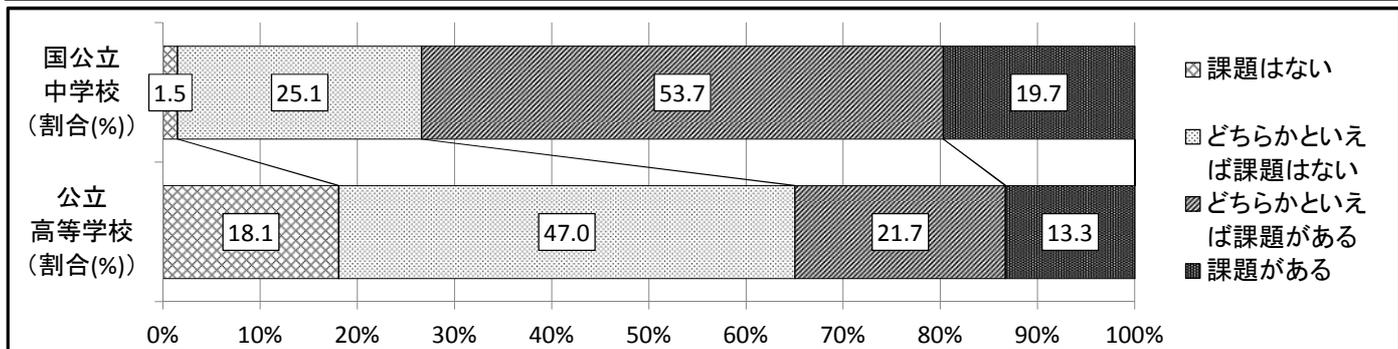


(2) 評価：新しい入試制度の課題と改善の方向性等

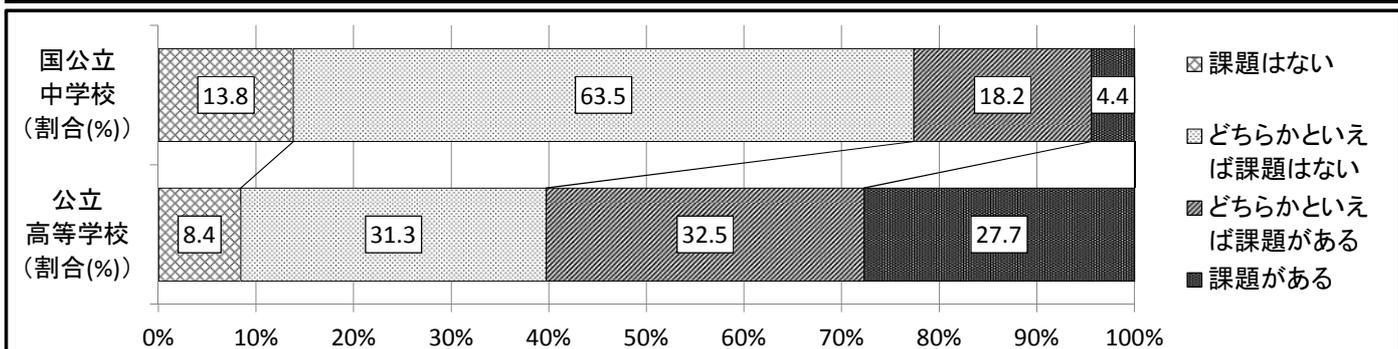
共 Q12 日程(入試全体の期間・時期)について



共 Q18 出願できる条件(前期選抜)について



共 Q22 入試事務を除く他の教育活動への影響について



○ 検証：旧制度からの変更点の効果等

- Q1～Q6では、中学校・高等学校の6割以上が概ね肯定的な回答をしており、特に、中学校・高等学校の8割以上が、透明性・客観性の確保に役立っていると回答している。
- 中学校においては、学習意欲の喚起・学習習慣の形成や目的意識の明確化・主体的な進路選択に役立っていると回答している中学校が多く、前期選抜・後期選抜とも学力検査を実施することで、学習意欲を喚起し、中学校段階における確かな学力の定着を図るという趣旨に関して一定の効果がうかがえる。
- 高等学校においては、期待する生徒像に沿った資質・能力の評価、特色ある学校づくりの一層の推進に役立っていると回答している学校が多く、現行制度が高等学校での魅力ある学校経営を進めていく契機となっていることがうかがえる。
- 一方で、Q7及びQ8で見られるように、入試制度そのものが、生徒の学校生活の充実や学校の教育活動の充実に役立っているという捉え方については、中学校・高等学校ともに意見が分かれていること、Q1で見られるように、受験機会の拡大・受験者数の増加について、中学校ほどには高等学校が評価していないことから、制度変更の趣旨に照らして期待される効果が十分に表れていない状況であることがうかがえる。

○ 評価：現在の入試制度の課題等

- Q12の入試日程については、7割以上の中学校で課題がないと回答しているが、高等学校では半数以上の学校で課題があると回答している。課題があるとした場合の記述回答では、その理由に入試期間の長期化を挙げており、中学校での十分な進路指導と複数の受験機会の確保の結果として、一定程度期間を設けざるを得ない現行制度の在り方については、Q1の回答も踏まえつつ、検討する必要がある。
- 前期選抜での「出願できる条件」は、Q2「目的意識の明確化や主体的な進路選択」、Q3「学習意欲の喚起・学習習慣の形成」、Q6「透明性・客観性の確保」に見られる評価の根拠になっていると考えられるが、中学校において、Q18で課題があるとした場合の記述回答では、その理由に「条件があいまいである」ことを挙げ、条件中の基準の具体化、明確化を求めている。このことと、6割強の高等学校が出願できる条件について、概ね課題がないと回答していることを突き合わせながら、特色ある高校入試の在り方について検討する必要がある。
- Q22の中学校の回答傾向をQ7、8に照らしてみると、中学校においては、入試事務が大きな負担となっていることがうかがえる。また、6割の高等学校において、入試事務を除く他の教育活動に影響があると考えていることも併せると、現行制度における入試事務の在り方や入試期間について検討する必要がある。

○ 県立高等学校入学者選抜について

1 これまでの入試改善の状況

- S 4 1 文部省通達：全教科型学力検査方針の転換
- S 4 2 学力検査9教科から5教科に
調査書と学力検査の結果を相関図表を用い総合的に判定
- S 5 3 農業・水産学科の一部に、推薦入試導入（←自営者養成目的）
4教科の評定2倍，○A導入
- S 5 9 文部省通知：受験機会の複数化，多面的な調査書の活用
- S 6 0 農業・水産の全学科に推薦入試拡大
- S 6 1 体育学科に推薦入試，実技導入
- S 6 2 商業・家庭・英語科で推薦入試導入
- S 6 3 工業・理数科で推薦入試導入
- H 元 看護科で推薦入試導入
- H 2 全日制でも第二次募集実施
- H 5 文部省通知：選抜方法の多様化，多段階の選抜，調査書と学力検査の
比重の置き方の工夫，調査書の学習の記録以外の充実・活用
- H 6 普通科で推薦入試導入（*全学科で推薦入試導入）
傾斜配点導入
- H 8 定時制に社会人推薦導入
- H 1 0 自己申告による傾斜配点導入
- H 1 2 面接の工夫・改善（自己表現の導入），普通科に面接を導入
- H 1 5 絶対評価による評定記載
- H 1 6 推薦入試で口頭試問，英語面接導入
学力検査の数学・英語に学校選択問題導入
- H 1 7 連携型中高一貫教育に関する入試開始
- H 1 9 中学校から推薦できる人数制限の撤廃
- H 2 0 併設型中高一貫校で高校入学導入
- H 2 2 数学・英語の共通問題と選択問題の合冊，解答用紙A3判
全県一学区，全県立高校男女共学化
- H 2 3 東日本大震災対応，調査書の簡素化，写真票の導入
- H 2 4 推薦入試最後の年度，震災4校仮校舎受験
- H 2 5 推薦入試を廃止，前期選抜と後期選抜を実施
- H 2 7 前期選抜の募集割合の上限を拡大
- H 2 8 後期選抜の第2志望を各校の希望により設定

2 現行入試制度の導入までの経過

● 現行制度導入前の入試制度について（平成6年度～平成24年度）		
推薦入試	一般入試	第二次募集
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1月下旬に実施 ○ 学力検査なし ○ 作文、面接、実技から1つ以上を必要に応じて実施 ○ 普通科 30%以内 普通科のコース、専門学科及び総合学科 40%以内 体育・美術に関する学科 60%以内 ○ 中学校長の推薦書 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3月上旬に実施 ○ 学力検査（5教科） ○ 面接、実技は必要に応じて実施 ○ すべての高校で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3月下旬に実施 ○ 学力検査（実施の有無及び教科数は学校で定める） ○ 作文、面接、実技から必要に応じて実施 ○ 定員割れのある高校のみ実施

主な課題

◆ 推薦入試の課題

- ▶ 中学校長の推薦の有無により受験機会に差が生じる
- ▶ 推薦の基準や各高校が「求める生徒像」が抽象的で、中学校での校内選考が困難
- ▶ 学力検査が不要な早期合格の手段となり学習意欲の低下などの影響あり
- ▶ 特に普通科では、5段階評定にのみ依存した選抜となっているのではないか

◆ 一般入試の課題

- ▶ 学力検査問題の質と量、英語・数学の学校選択問題の継続の可否等を検討すべき
- ▶ 中学生や受験生・保護者に、各高校の選抜方針をどのように具体的に示すか
- ▶ 高校の特色化を図るために、学校裁量幅をどのように拡大するか

県教育委員会が高等学校入学者選抜審議会に諮問（平成20年7月）
「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について」

◆ 改善の主な観点

- ▶ 受験生の多様な能力・適性を多面的に評価
- ▶ 学力の向上
- ▶ 特色ある学校づくりの一層の推進

◆ 基本的な考え方

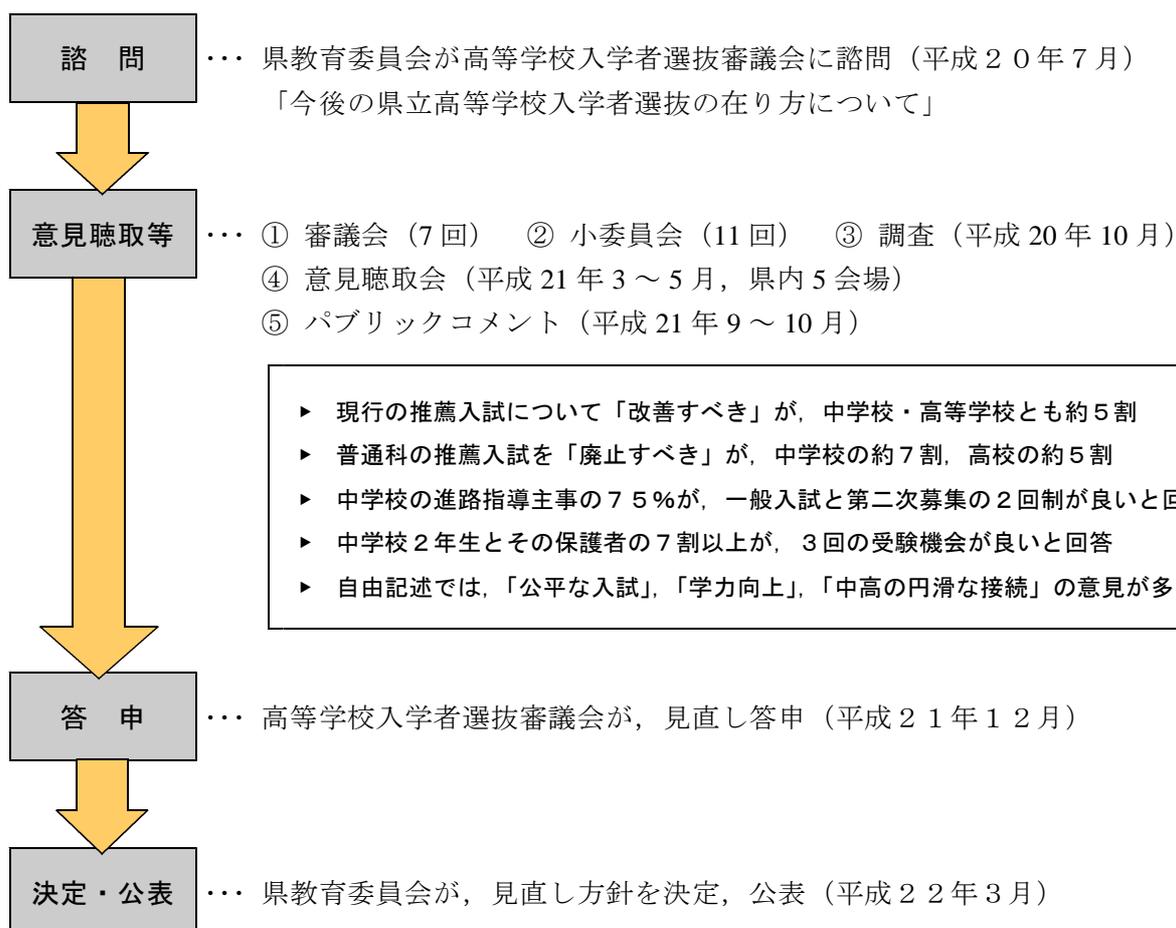
- ▶ 生徒にとって公正かつ適正なものである
- ▶ 受験生が自らの将来を展望する契機となる
- ▶ 中学校と高等学校を円滑につなぐものである
- ▶ 学力向上につながるものである

答申（平成21年12月）

《改善の方向性及び具体的な改善案》 前期選抜 + 後期選抜 + 第二次募集

- ◆ 最大3回の受験機会を確保
- ◆ 受験生の多様な能力を多面的に評価するという理念を継承
- ◆ 受験生の意欲・目的意識を大切にした選抜の仕組みの継続
- ◆ 各高校の特色ある学校づくりの一層の推進
- ◆ 学力の向上

● 審議等の経過について



3 現行の入試制度について

《平成28年度入学者選抜》

◆ 前期選抜（あらかじめ各高校が示す出願要件を満たす生徒が受験できる）	
実施時期	2月 3日（水）
合格発表	2月12日（金）
募集割合	各高校が以下の範囲内で割合を定める (H26 入試) <ul style="list-style-type: none"> ▶ 普通科 10～30% (10～20%) ▶ 普通科のコース，専門学科及び総合学科 10～40% (10～30%) ▶ 体育・美術に関する学科 10～70% (10～50%)
選抜資料	調査書 …… 評定を点数化（満点225点） 学校独自検査 …… 作文，面接，実技のうち1つ以上を実施 学力検査 …… 3教科（国，数，英）
出願書類	志願理由書（志願者が作成する）

◆ 後期選抜	
実施時期	3月 9日 (水) (実技等のある学校は, 3月10日(木)も実施)
合格発表	3月16日 (水)
募集人数	募集定員から前期選抜等の合格者を除いた人数
選抜資料	調査書 …… 評定を点数化 (満点195点) 学力検査 …… 5教科 (国, 社, 数, 英, 理) 面接 …… 各高校において, 必要に応じて実施 実技 …… 体育, 美術に関する学科において, 必要に応じて実施

◆ 第二次募集 (後期選抜終了時点で, 合格者数等が募集定員に満たない学校で実施)	
実施時期	3月23日 (水) (面接, 実技等のある学校は, 3月24日(木)も実施)
合格発表	3月23日 (水) 又は24日 (木)
選抜資料	調査書 …… 記載事項を総合的に評価 学力検査 …… 各学校において, 必要に応じて実施 面接 …… 各学校において, 必要に応じて実施 実技 …… 体育, 美術に関する学科において, 必要に応じて実施

4 現行制度の課題と今後の改善の方向性

① 長期化している入試期間について

- ・ 中学校における十分な進路指導と複数の受検機会の確保
- ・ 高等学校における教育活動の充実

② 特色ある高校入試の在り方について

- ・ 前期選抜, 後期選抜の在り方について
- ・ 生徒の多面的な能力を評価するための入試の在り方について

③ 現行制度における入試事務の在り方について

※ 入学者選抜審議会の今後のスケジュール（予定）

月	内 容
7月	<p>《第1回審議会》（本日）</p> <p>「平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（諮問）」</p> <p>「平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（諮問）」</p> <p>「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について（諮問）」</p>
11月	<p>《第2回審議会》</p> <p>「平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（答申）」</p> <p>「平成30年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（答申）」</p> <p>「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について（中間まとめ）」</p>
2月	<p>《第3回審議会》</p> <p>「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について（答申）」</p>

報 告 関 係 資 料

報告（1）

平成 28 年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について

1	総括	1
2	学科別出願者数・合格者数等	2
3	地区別出願者数・合格者数等（全日制課程）	2
4	学科別出願倍率	3
5	地区別出願倍率（全日制課程）	3
6	出願状況からみた全県一学区化に伴う地区外出願状況について	3
7	平成 28 年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について	4

報告（2）

平成 29 年度宮城県公立高等学校入学者選抜について

1	平成 29 年度宮城県公立高等学校入学者選抜について 募集定員，日程等	5
2	平成 29 年度宮城県公立高等学校入学者選抜一覧の詳細について 前期選抜，後期選抜，社会人特別選抜，事務日程（予定）	6
3	公立高等学校入学者選抜におけるこれまでの変更点について	10

報告（3）

	専門委員の就任について	12
--	-------------	----

平成28年度宮城県公立高等学校入学者選抜について(報告)

1 総括

		全日制課程		定時制課程	
		平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度
中学校卒業予定者数(平成27年5月1日現在)		21,723	21,756	—	—
募集定員 (a)		14,760	14,920	1,000	1,000
併設型中学校から併設型高等学校への入学 (b)		196	154		
前期選抜	募集人数	4,842	4,828	308	308
	出願者数	8,346	7,968	204	230
	出願倍率	1.72	1.65	0.66	0.75
	欠席者数	34	31	6	7
	受験者数	8,309	7,927	198	223
	受験倍率	1.72	1.64	0.64	0.72
	合格者数 (c)	4,619	4,627	141 (2)	163 (0)
連携型選抜	募集人数	106	142	(注) ()内数字は、社会人特別選抜合格者数で内数	
	出願者数	63	95		
	合格者数 (d)	53	92		
後期選抜	募集人数	9,892	10,047	859	837
	出願者数	12,259	12,228	294	340
	出願倍率	1.24	1.22	0.34	0.41
	特例措置出願	0	1	0	0
	欠席者数	145	190	4	11
	受験者数	12,114	12,039	290	329
	受験倍率	1.22	1.20	0.34	0.39
	合格者数 (e)	9,187	9,243	246	302
第二次募集	募集人数	710	809	613	535
	出願者数	216	243	110	112
	受験者数	213	243	104	109
	合格者数 (f)	200	212	84	93
全合格者数 (b+c+d+e+f)		14,255	14,328	471	558
充足率(%) $((b+c+d+e+f)/a * 100)$		96.6	96.0	47.1	55.8

		通信制課程(一期)		通信制課程(二期)	
		平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度
入学者選抜	募集定員	450	450	50	50
	募集人数	450	450	385	398
	出願者数	116	102	9月受付	31
	受験者数	115	102	9月実施	30
	合格者数	115	102	9月実施	30

2 学科別出願者数・合格者数等

(1) 全日制課程

	学 科	募集定員	前期選抜			後期選抜			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数	充足率 (%)
			出願者数	合格者数	合格率	出願者数	合格者数	合格率				
1	普通	9,400	5,049	2,650	52.5	8,433	6,184	73.3	241	91	9,166	97.5
2	農業	720	497	256	51.5	518	402	77.6	—	9	667	92.6
3	工業	1,560	1,065	594	55.8	1,249	922	73.8	—	7	1,523	97.6
4	商業	1,200	646	428	66.3	844	644	76.3	8	46	1,126	93.8
5	水産	240	127	96	75.6	137	116	84.7	—	11	223	92.9
6	体育	120	177	84	47.5	66	37	56.1	—	—	121	100.8
7	英語	80	54	28	51.9	88	52	59.1	—	—	80	100.0
8	家庭	120	92	42	45.7	84	73	86.9	—	—	115	95.8
9	看護	40	15	12	80.0	45	28	62.2	—	—	40	100.0
10	理数	200	113	78	69.0	143	122	85.3	—	—	200	100.0
11	美術	40	58	20	34.5	20	20	100.0	—	—	40	100.0
12	総合	960	400	300	75.0	592	551	93.1	—	31	882	91.9
13	福祉	40	20	15	75.0	18	16	88.9	—	3	34	85.0
14	災害科学	40	33	16	48.5	22	20	90.9	—	2	38	95.0
	計	14,760	8,346	4,619	55.3	12,259	9,187	74.9	249	200	14,255	96.6

※ 中高一貫教育進学者数は、連携型選抜合格者数と併設型中学校から併設型高校への進学者数を合わせたもの

(2) 定時制課程

	学 科	募集定員	前期選抜			後期選抜			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数	充足率 (%)
			出願者数	合格者数	合格率	出願者数	合格者数	合格率				
1	普通	760	187	127	67.9	268	227	84.7	—	72	426	56.1
2	工業	240	17	14	82.4	26	19	73.1	—	12	45	18.8
	計	1,000	204	141	69.1	294	246	83.7	—	84	471	47.1

3 地区別出願者数・合格者数等(全日制課程)

	地 区	募集定員	前期選抜			後期選抜			中高一貫教育 進学者数	第二次募集 合格者数	全合格者数	充足率 (%)
			出願者数	合格者数	合格率	出願者数	合格者数	合格率				
1	刈田・柴田	1,280	684	428	62.6	907	779	85.9	—	37	1,244	97.2
2	伊 具	280	89	70	78.7	167	162	97.0	—	13	245	87.5
	南部地区	1,560	773	498	64.4	1,074	941	87.6	—	50	1,489	95.4
3	亘理・名取	1,000	558	301	53.9	944	686	72.7	—	9	996	99.6
4	仙台南	2,400	1,624	712	43.8	2,392	1,583	66.2	102	2	2,399	100.0
	中部南地区	3,400	2,182	1,013	46.4	3,336	2,269	68.0	102	11	3,395	99.9
5	仙台北	2,920	1,760	904	51.4	3,067	2,017	65.8	—	—	2,921	100.0
6	塩 釜	1,160	752	361	48.0	1,198	796	66.4	—	2	1,159	99.9
7	黒 川	520	183	174	95.1	445	342	76.9	—	—	516	99.2
	中部北地区	4,600	2,695	1,439	53.4	4,710	3,155	67.0	—	2	4,596	99.9
8	大 崎	1,280	641	378	59.0	780	668	85.6	94	37	1,177	92.0
9	遠 田	440	257	147	57.2	276	226	81.9	—	28	401	91.1
10	登 米	600	367	194	52.9	434	370	85.3	—	9	573	95.5
11	栗 原	560	275	191	69.5	293	274	93.5	—	30	495	88.4
	北部地区	2,880	1,540	910	59.1	1,783	1,538	86.3	94	104	2,646	91.9
12	石 巻	1,640	908	578	63.7	950	906	95.4	—	25	1,509	92.0
13	本 吉	680	248	181	73.0	406	378	93.1	53	8	620	91.2
	東部地区	2,320	1,156	759	65.7	1,356	1,284	94.7	53	33	2,129	91.8
	総 計	14,760	8,346	4,619	55.3	12,259	9,187	74.9	249	200	14,255	96.6

4 学科別出願倍率

(1) 前期選抜(H24は推薦)

学 科		出願倍率				
		H28	H27	H26	H25	H24
1	普通	1.85	1.75	2.43	2.66	1.22
2	農業	1.73	1.67	1.91	1.70	0.45
3	工業	1.71	1.73	1.70	1.91	0.89
4	商業	1.43	1.32	1.92	2.21	0.96
5	水産	1.32	1.16	1.46	2.02	0.51
6	体育	2.11	2.07	2.57	3.23	1.42
7	英語	1.93	1.32	3.33	3.54	1.09
8	家庭	1.92	1.31	2.06	2.03	0.92
9	看護	1.25	1.58	1.25	1.25	1.81
10	理数	1.41	1.73	1.57	2.80	1.00
11	美術	2.90	3.55	2.85	3.95	0.96
12	総合	1.14	1.18	1.00	1.33	0.60
13	福祉	1.25	1.38	—	—	—
14	災害科学	2.06	—	—	—	—
全日制課程		1.72	1.65	2.10	2.35	1.05
定時制課程		0.66	0.75	0.57	0.81	0.08

(2) 後期選抜(H24は一般入試)

学 科		出願倍率				
		H28	H27	H26	H25	H24
1	普通	1.30	1.24	1.27	1.19	1.26
2	農業	1.12	1.12	1.07	1.04	0.94
3	工業	1.29	1.26	1.07	1.19	1.15
4	商業	1.10	1.09	1.13	1.11	1.06
5	水産	0.95	0.68	1.04	1.02	0.97
6	体育	1.83	1.67	1.18	1.58	1.54
7	英語	1.69	1.56	1.71	1.63	1.22
8	家庭	1.08	1.36	1.26	1.34	1.06
9	看護	1.61	1.54	1.68	1.39	1.50
10	理数	1.17	1.96	1.09	1.66	1.29
11	美術	1.00	1.85	1.50	2.05	1.00
12	総合	0.90	1.07	0.99	1.10	1.12
13	福祉	0.72	0.88	—	—	—
14	災害科学	0.92	—	—	—	—
全日制課程		1.24	1.22	1.21	1.19	1.23
定時制課程		0.34	0.41	0.39	0.42	0.49

5 地区別出願倍率(全日制課程)

(1) 前期選抜(H24は推薦)

地 区	出願倍率				
	H28	H27	H26	H25	H24
南部地区	1.39	1.35	1.52	1.61	0.69
中部南地区	2.06	1.94	2.56	2.75	1.32
中部北地区	1.83	1.83	2.60	3.00	1.31
北部地区	1.58	1.39	1.55	1.76	0.73
東部地区	1.48	1.48	1.70	1.95	0.85
総 計	1.72	1.65	2.10	2.35	1.05

(2) 後期選抜(H24は一般入試)

地 区	出願倍率				
	H28	H27	H26	H25	H24
南部地区	1.01	0.97	0.97	0.93	0.96
中部南地区	1.46	1.42	1.44	1.38	1.46
中部北地区	1.49	1.48	1.45	1.42	1.48
北部地区	0.95	0.89	0.91	0.92	0.97
東部地区	0.90	0.97	0.93	0.96	0.98
総 計	1.24	1.22	1.21	1.19	1.23

6 出願状況からみた全県一学区化に伴う地区外出願状況について

※数値は総出願者数に対する各地区外への出願者数の割合(%)

		H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
地区外出願者の割合		17.2%	16.0%	15.3%	15.7%	14.5%	14.2%	13.6%	8.5%
内訳	1 中部南北地区間	10.5%	10.0%	9.0%	9.7%	8.7%	8.2%	7.7%	4.4%
	2 中部地区と他地区間	5.9%	5.1%	5.5%	5.2%	5.0%	5.1%	5.0%	3.4%
	3 中部地区以外の地区間	0.8%	0.9%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	0.9%	0.7%

平成28年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

1 目 的

- (1) 検査問題について検討し、今後の問題作成の改善に役立てる。
- (2) 受験者の学習状況を把握し、中学校・高等学校の学習指導の参考とする。

2 学力検査

・前期選抜・・・国語, 数学, 英語 ・後期選抜・・・国語, 社会, 数学, 理科, 英語

3 分析方法

全日制課程の受験者のうち、前期選抜では、25校200人、後期選抜では、50校400人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

4 分析結果

(1) 得点分布

- ① 前期選抜・・・冊子4ページ ② 後期選抜・・・冊子28～29ページ

(2) 各教科の概況

【前期選抜】	
国語 平均点 59.7点	文章の大まかな流れや場面ごとの内容の読み取り、漢字の読み書きや文法事項などの基礎的な力は定着しているが、読み取った内容を整理し、目的に応じて表現する力に課題がある。
数学 平均点 47.7点	基礎的な知識や計算力については定着が見られるが、身近な事象を数学的に捉え、表、式、グラフ等を活用して考察し表現する力に課題がある。
英語 平均点 55.6点	基本的な会話表現における内容理解や文法・語彙はよく理解しているが、まとまった英文の内容を読み取る力や、自分の考えや気持ちなどを英文で表現する力に課題がある。
【後期選抜】	
国語 平均点 65.4点	まとまりのある文章を読んで内容を理解する力や、基本的な文法事項やことわざなどの知識は身に付いているが、文脈に即して登場人物の心情や筆者の意図を捉えて、表現する力に課題がある。
社会 平均点 61.1点	基礎事項については概ね定着が見られるが、多数の資料から必要な情報を正しく選択し、関連付けて表現する力に課題がある。
数学 平均点 44.4点	基礎的な計算力や個々の基本的な知識については定着が見られるが、それらを活用したり組み合わせる思考したりする力に課題がある。
理科 平均点 50.5点	基本的かつ定性的な内容についての選択問題の正答率が高いが、現象の正確な理解、実験におけるデータ処理や考察する力をみる論述問題のような、科学的な思考力や判断力、表現力を必要とする問題において課題がみられる。
英語 平均点 61.6点	会話文における内容理解や基本的な文法・語彙の理解はできているが、英文を構築するための文法力や語彙力が不十分であるため、英文の内容を読み取る力や、英語で自分の考えを表現する力に課題がある。
各教科共通 (得点率・無答率)	知識・理解を問う基礎的・基本的な問題の正答率が高いが、思考力・判断力・表現力を必要とする問題の正答率・得点率が低く、無答率が高い傾向を示している。

平成29年度公立高等学校入学者選抜について

1 募集定員

		平成29年度	平成28年度	増減
募集定員(全日制課程+定時制課程)		15,720	15,760	▲ 40
		14,720	14,760	▲ 40
全日制課程	前期選抜	4,846	4,842	4
	後期選抜※1	9,874	9,918	▲ 44
		1,000	1,000	0
定時制課程	前期選抜	296	308	▲ 12
	後期選抜※1	704	692	12
		500	500	0
通信制課程 (美田園高校)	一期入学者選抜	450	450	0
	二期入学者選抜	50	50	0

※1：後期選抜の定員は前期選抜後に確定する。

なお、全日制の後期選抜の定員数には、併設型及び連携型中学校からの入学予定者316名を含む。

2 日程等

	前期選抜・連携型選抜※2	後期選抜	第二次募集※3
出願資格	志望する高等学校が事前に公表する「出願できる条件」を満たす生徒	前期選抜を受験していない生徒及び前期選抜に合格していない生徒	前期選抜、後期選抜のいずれにも合格していない生徒
実施日	平成29年2月1日(水)	平成29年3月8日(水)	平成29年3月22日(水) ※3
実施内容	○3教科の学力検査 (国語・数学・英語) ○学校独自検査 (面接・実技・作文等から 1つ以上実施)	○5教科の学力検査 (国語・社会・数学・理科・英語) ○面接や実技を実施する 場合がある	面接、実技、作文、 学力検査(国語・数 学・英語)のいずれ か1つ又は複数を実 施する場合がある
合格発表	平成29年2月9日(木)	平成29年3月16日(木)	平成29年3月22日 (水)・23日(木)※4

※2:連携型選抜 連携型中高一貫教育を行っている、南三陸町内の2中学校(志津川中、歌津中)の生徒を対象として、志津川高校において実施

※3:合格者数が募集定員に満たない高校で実施

※4:実施校で決定し、後日公表

3 HPでの公表

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koukyou/>

平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜一覧の詳細について

入学者選抜実施校の数え方

- 全日制課程・・・70校136学科・コース
 分校も1校と数えている。学科数は、複数の学科が一括募集を実施する場合は、まとめて1学科として、同一学科でコース別に募集する場合は、それぞれのコースを1学科として数えている。
- 定時制課程・・・13校21学科
 分校も1校と数えている。

※表中の学校数は、普通科，専門・総合学科，体育・美術の分類ごとに数えている。

I 前期選抜

1 募集割合（学校数は延べ数）

募集割合	全日制課程						定時制課程			
	普通科 (コース制除く)		専門・総合学科 ・普通科コース制		体育・美術		普通科		専門学科	
	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数
5%	1※	1※
10%	.	.	1※	1※
20%	1	1	3	5	.	.
25%	3	3
30%	39	39	7	10	.	.	7	10	1	2
40%			32	78	.	.			2	4
50%					1	1				
70%					2	2				
合計	44	44	40	89	3	3	10	15	3	6

※ 志津川は連携型選抜も実施するため、上限は、普通科5%，情報ビジネス科10%

2 各学校独自検査（作文・面接・実技）を実施する学校・学科の延べ数

学校独自検査	全日制課程						定時制課程			
	普通科		専門・総合学科		体育・美術		普通科		専門学科	
	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数
作文	23	27	9	11	.	.	3	3	1	2
面接	28	30	30	72	1	1	10	15	3	6
実技					3	3				
合計	51	57	39	83	4	4	13	18	4	8

3 配点

(1) 学力検査（学校数は延べ数）

配点		全日制課程						定時制課程			
		普通科		専門・総合学科		体育・美術		普通科		専門学科	
		学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数
300	各100	44	49	27	52	1	1	4	7	1	2
	傾斜配点
225	各75	1	1	3	9
150	各50	3	3	8	19	1	1	6	8	2	4
75	各25	1	1
合計		48	53	38	80	3	3	10	15	3	6

(2) 学校独自検査（延べ数）

配点		全日制課程						定時制課程			
		普通科		専門・総合学科		体育・美術		普通科		専門学科	
		学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数
検査	配点	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数
作文	100	3	3	1	1
	75	17	20	7	7
	50	3	4	1	3	.	.	2	2	1	2
	25
	20	1	1	.	.
	計	23	27	9	11	.	.	3	3	1	2
面接	225	.	.	1	2
	150	.	.	4	6	.	.	4	6	2	4
	100	1	1	1	1	.	.	1	3	1	2
	90
	75	24	25	23	60	.	.	2	3	.	.
	60	1	1	.	.
	50	1	2	1	3	.	.	2	2	.	.
	25	2	2	.	.	1	1
	計	28	30	30	72	1	1	10	15	3	6
実技	275					1	1				
	225					1	1				
	75					1	1				
	計					3	3				

Ⅱ 後期選抜

1 調査書点と学力検査点との比重（学校数は延べ数）

調査書点：学力検査点	全日制課程						定時制課程			
	普通科		専門・総合学科		体育・美術		普通科		専門学科	
	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数
3 : 7	13	13	6	6	1	1	3	6	・	・
4 : 6	19	22	10	19	・	・	1	1	・	・
5 : 5	15	17	19	52	2	2	4	4	3	6
6 : 4	1	1	3	3	・	・	1	1	・	・
7 : 3	・	・	・	・	・	・	1	3	・	・
合計	48	53	38	80	3	3	10	15	3	6

2 面接・実技を実施する学校（延べ数）

後期選抜において 面接・実技実施	全日制課程						定時制課程			
	普通科		専門・総合学科		体育・美術		普通科		専門学科	
	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数	学校数	学科数
面接	5	6	9	17	・	・	9	13	3	6
実技					3	3				
合計	5	6	9	17	3	3	9	13	3	6

Ⅲ 社会人特別選抜（定時制課程）

11校19学科・部

普通科	専門学科
大河原商 名取 佐沼 気仙沼 貞山(昼・夜) 田尻さくら(I部・II部) 東松島(I部・II部・III部) 仙台大志(I部・II部) 8校13学科・部	仙台工(建築土木・機械) 古川工(電気・機械) 宮城二工(電子機械・電気) 3校6学科

IV 事務日程(予定)

事 項		期 日	
募 集 定 員 公 表		平成28年7月1日(金)	
入 学 者 選 抜 一 覧 公 表		平成28年7月1日(金)	
第 1 回 志 願 者 予 備 調 査		平成28年11月1日(火)から11月4日(金)まで	
第 2 回 志 願 者 予 備 調 査		平成28年1月4日(水)から1月6日(金)まで	
前 期 選 抜 連 携 型 選 抜	出 願 受 付	平成29年1月10日(火)から1月13日(金)まで	
	出 願 書 類 受 領 書	平成29年1月10日(火)から1月13日(金)まで	
	受 験 票 等 送 付 一 覧	平成29年1月19日(木)	
社 会 人 特 別 選 抜	学 力 検 査 等	平成29年2月1日(水)	
	結 果 通 知	平成29年2月9日(木)	
	合 格 者 の 発 表		
後 期 選 抜	出 願 受 付	平成29年2月21日(火)から2月24日(金)まで	
	学 力 検 査	平成29年3月8日(水)	
	合 格 者 の 発 表	平成29年3月16日(木)	
第 二 次 募 集	出 願 受 付	平成29年3月17日(金)から3月21日(火)まで	
	学 力 検 査 等	平成29年3月22日(水)	
	合 格 者 の 発 表	平成29年3月22日(水)から3月23日(木)まで	
通 信 制 課 程	一 期 入 学 者 選 抜	出 願 受 付	平成29年3月12日(日)から3月17日(金)まで
		合 格 通 知	平成29年3月25日(土)に郵便で発送
	二 期 入 学 者 選 抜	出 願 受 付	成28年10月に公表
		合 格 通 知	

3 公立高等学校入学者選抜におけるこれまでの変更点について

(1) 平成26年度入試

① 入学者選抜について

- ・前期選抜における「出願できる条件」
→ 出欠条件の撤廃，評定基準の修正

② その他

- ・出願及び報告に係る各種様式の整理等
→ 調査書の出願校名欄の廃止，現住所記載欄の略記
→ 前期選抜出願書類に係る受領書の発行
→ 採点時における3審の導入

(2) 平成27年度入試

① 入学者選抜について

- ・前期選抜における「出願できる条件」
→ 評定基準の修正等
- ・学校独自検査
→ 検査項目，検査内容，配点の見直し
- ・前期学力検査
→ 配点の見直し
- ・後期選抜
→ 調査書点と学力検査点との比重の見直し
- ・前期選抜と後期選抜の募集割合
→ 入学者選抜審議会の提言を踏まえ変更

② その他

- ・後期出願期間の確保
→ 平成26年度：7日間 → 平成27年度：8日間
- ・入試ミスの未然防止
→ 採点期間の確保（採点業務に専念）
→ 採点手順のマニュアル化・点検体制の整備（複数の目でチェック）
→ 教育委員会による採点済み答案の抽出・点検
→ 解答用紙・正答表等の様式の工夫改善

(3) 平成28年度入試

① 入学者選抜について

・前期選抜における「出願できる条件」

→ 前年度大幅な見直しを実施

受験者の出願を制限する方向の変更は不可

変更する場合…受験生の混乱をきたすことがないように配慮

② その他

・後期選抜における第2志望の取扱について

現行（主な場合）

ア 専門学科（職業系）：出願大学科内の他の小学科を第2志望とすることができる。

イ 専門学科（非職業系，看護・観光）：出願校の普通科を第2志望とすることができる。

ウ 普通科（コース制）：他のコースを第2志望とすることができる。

エ 登米総合産業高等学校（登米）：他の学科を第2志望とすることができる。

オ 多部制高等学校（東松島）：他の部を第2志望とすることができる。

→ 複数の学科，コース，部を併置する学校については，出願校の他の学科等を第2志望とすることができることとした。

・入試ミスの未然防止

→ 採点期間の確保（検査日から合格発表日までの期間）

平成27年度…前期選抜：平日4日間，後期選抜：平日4日間

平成28年度…前期選抜：平日5日間，後期選抜：平日4日間

(4) 平成29年度入試

① 入学者選抜について

・前期選抜における「出願できる条件」の評定基準の変更・修正等

→ 平成28年2月：入学者選抜一覧【予定版】公表

変更を予定している学校：25校42学科・コース・部

平成28年7月：入学者選抜一覧で正式公表

H28から変更した学校：29校49学科・コース・部

② その他

・入試ミスの未然防止

→ 採点期間の確保（検査日から合格発表日までの期間）

平成27年度…前期選抜：平日5日間，後期選抜：平日4日間

平成28年度…前期選抜：平日5日間，後期選抜：平日5日間

3 専門委員の就任について

(1) 専門委員の設置

平成25年度からスタートした新入試制度について、その実施状況を踏まえ、主に旧制度からの変更点についてその効果を検証するとともに、併せて、県立高等学校入学者選抜の今後の改善の方向性について調査・研究を行い、もって入学者選抜制度の改善に資する。

(2) 専門委員の任期

平成28年7月25日から平成29年6月30日まで

(3) 専門委員名簿

No.	氏名	現職	備考
1	たばた 健人 田端 健人	宮城教育大学教育学部教授	入選審委員
2	むらかみ ゆうこ 村上 裕子	宮城県PTA連合会副会長	入選審委員
3	にいやま ひろゆき 新山 弘幸	仙台市立長町中学校長	入選審委員
4	こばやし ゆうすけ 小林 裕介	宮城県総合教育センター所長	入選審委員
5	とおやま かつじ 遠山 勝治	塩竈市教育委員会学校教育課長	
6	いのまた ちあき 猪股 智秋	美里町立南郷中学校教頭	
7	いわい まこと 岩井 誠	田尻さくら高等学校教頭	
8	ささき ひろあき 佐々木 弘晃	北部教育事務所栗原地域事務所副参事	

(4) 専門委員会におけるこれまでの審議経過

① 平成25年度

○第1回専門委員会（平成25年9月27日 自治会館）

- ・平成25年度宮城県立高等学校入学者選抜
実施状況について
- ・論点整理
「検証の観点」と「検証事項」の確認

○第2回専門委員会（平成25年10月29日 県庁）

- ・（調査研究）：「新入試制度の定着に向けての改善の方向性」
宮城県公立高等学校入学者選抜の改善に係る提言（平成25年11月報告）

② 平成26年度

○第1回専門委員会（平成26年9月4日 県庁）

- ・平成28年度宮城県立高等学校入学者選抜
選抜日程について
- ・入学者選抜の公平・公正かつ正確な実施に向けて
入学者選抜における採点方法等の改善策について
- ・（調査研究）：「新入試制度の定着に向けての改善の方向性」
調査研究の進め方，調査研究事項の整理

○第2回専門委員会（平成26年10月23日 県庁）

- ・（調査研究）：「新入試制度の定着に向けての改善の方向性」
調査研究事項の整理，質問紙調査の進め方について

③ 平成27年度

○第1回専門委員会（平成27年9月10日 県庁）

- ・平成29年度宮城県立高等学校入学者選抜
選抜日程について
- ・（調査研究）：「新入試制度の定着に向けての改善の方向性」
質問紙調査の進め方及び調査質問の検討

○第2回専門委員会（平成27年10月22日 県庁）

- ・（調査研究）：「新入試制度の定着に向けての改善の方向性」
質問紙調査に係る調査項目の検討

平成29年度宮城県公立高等学校

入学者選抜一覽

入試制度の仕組み	(i)
留意事項	(ii)
入学者選抜一覽表の見方	(iii) (iv)
全日制課程	1ページ
定時制課程	43ページ
連携型選抜	46ページ
通信制課程	46ページ

平成28年7月

宮城県教育委員会
仙台市教育委員会
石巻市教育委員会

平成28年度

公立高等学校入学者選抜
学力検査の分析結果

宮城県教育委員会